



Tanabe East Rotary Club in 2017-18

2017-18年度RI会長: イアン H.S. ライスリー
 第2640地区ガバナー: 岡本 浩
 田辺東ロータリークラブ
 創立: 昭和49年5月15日
 会長: 木村 壽一
 幹事: 片井 貢



ロータリー:
変化をもたらす

例会場/事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
<http://tanabe-east-rc.com/>
 E-mail info@tanabe-east-rc.com
 例会: 毎週水曜日 12:30~
 ビジターフィー ¥2,000

○会長報告 会長 木村 壽一



■3月25日(日) ダイワロイネットホテル和歌山に於いて「会長エレクト研修セミナー」が開催されます。会長エレクトの武田静也君に出席していただきます。ご苦労様です。

■本日のお客様は、R I 第3ゾーンR R F C (パストガバナー) 村上有司様です。田辺ロータリークラブに所属されています。後ほど宜しくお願い致します。

■ガバナー事務所より、和歌山東南ロータリークラブのメールアドレスとホームページアドレスが変更になった事の連絡がありました。

■本日の例会終了後、定例理事会を開催いたします。理事・役員さんはご出席宜しくお願い致します。

メールアドレス rotary@wakayama-serc.org
 HPアドレス <http://wakayama-serc.org/>

○幹事報告 幹事 片井 貢



「ガバナー月信第9号 (3月号)」
 「第36回RYLA研修セミナー開催の御案内」 「募集要項」
 「事業の目的」 「参加申込書」 「プログラム」
 「2025年大阪万国博覧会誘致に向けた応援署名活動の協力について」
 「2025年大阪万国博覧会誘致に向けた応援署名について (依頼)」

■例会日時変更

◎白浜RC

3月23日(金) → 休会

◎海南西RC

4月 5日(木) → 4月7日(土)

場所: 「神田屋」 海南市藤白 <花見例会>

◎檜畑ガバナーエレクト事務所より

「2018-2019年度のための地区協議会開催について
 日時: 4月22日(日)」

「IT委員会開催のご案内」

■回覧

◎岡本ガバナー事務所より

「和歌山東南RCメールアドレス・HPアドレスのお知らせ」

■連絡

◎ガバナー月信第9号が届いています。各自トレーに入れています。

◎次週3月21日(水)の例会は祝日のため休会です。次回は3月28日(水)です。

○本日の唱歌

「われら日本のロータリアンの歌」

唱歌委員 湯川 和洋 君



○ゲスト・ビジター

R I 第3ゾーンRRFC 村上 有司(むらかみ ゆうじ) 様
(ロータリー財団地域コーディネーター)



○出席報告

会員数 43名 義務免除 4名 本日の欠席者 11名
本日出席率 71.79% 2月28日の修正出席率 92.11%

○にこにこ報告

(敬称略)

◇R I 第3ゾーンRRFC 村上 有司様をお迎えして
愛須 勝章、上原 俊宏、岡本 博、片井 貢
木村 壽一、小山 實、坂本 正人、佐田 一三
武田 静也、竹中 悟、竹村 英一、谷中 順次郎
那須 壽子、野村 憲司、畑地 誠、森本 修至
山本 亘、吉田 和枝、吉本 正美

◇村上有司様より卓話謝礼をニコニコ箱に頂きました。

◇村上先生、本日お忙しいところご苦労さまです。
よろしくお祈りします。 泉 房次朗

◇お花いただきます。

早稲田 清司

○本日のプログラム

R I 第3ゾーンRRFC
(パストガバナー・田辺RC)

村上 有司 様



「ロータリークラブの誕生」

ポールは、後々のためにクラブの自的を決めておく必要があると考え、次の二項目からなる“綱領”をつくりました。

- (1) 本クラブ会員の事業上の利益の増大
- (2) 通常社交クラブに付随する親睦、およびその他の特に必要と思われる事項の推進

3、シカゴロータリークラブは、会員を増加させシカゴの街の注目を集めました。これと共に内外からの批判も起ってきました。

ドナルド・カーター（特許弁護士）は、クラブへの入会を勧められましたが、前記綱領を見て、「このクラブは、会員個人の利益を追求する“仲長シクラブ”です。これでは発展は期待出来ません。もし、このクラブを大きくしようとするのなら、“公共の奉仕”を目的に入れるべきです」と批判しました。

この話しを側聞したポールは、「クラブに入って、内から改革してくれたまえ」とカーターに入会を強く勧めました。カーターは、1906年5月シカゴロータリークラブに入会し、ポールらの協力を得て先の綱領に「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に拡げる」という第3項を付け加えました。

1907年のことですが、この時からロータリーは、目的の一つに“社会奉仕”を取り入れたのです。カーターは、シカゴ市に公衆便所を寄付する等の奉仕活動の先頭に立って行動し、“社会奉仕の父”として尊称されました。

1、ロータリークラブは、1905年2月23日の晩、弁護士ポール・ハリスら4人の若者が、シカゴにあった鉱業エンジニア ガスターバス・ローアの事務所に集って、話し合ったことから始まったといわれています。4人の若者は、雑踏の大都会シカゴで親友をつくれないうという共通の苦悩をかかえていました。

2、真面目なポール・ハリスは、幾晩も眠れない夜を重ねた結果、「各業界を代表する人をメンバーとする異業種クラブ」をつくらうと思いました。そして、会員同志は他の会員の職業上の地位を尊重し、かつ、互いに後援者となって“互恵取引”を重ね、一層信頼関係を増大させ、これによって友情が生まれると考えたのです。ポールの熱弁に他の3人も直ぐ賛同し、2週間毎に会員の事務所を持ち廻って会合を続けることになりました。

後にこのクラブを“ロータリークラブ”と命名することになったのは、これに由来します。

ロータリーは、以後“職業奉仕”と“社会奉仕”の拮抗と融和を繰り返しながら発展することになるのです。

4、しかし、この当時の“社会奉仕”は、先ず“社会奉仕”ありきでした。すなわち、“社会奉仕”活動を計画した後、それに必要な資金を集めるという方法でしたが、これでは大きな“社会奉仕”活動は出来ませんし、奉仕活動を頻繁にすることは困難です。

第7代R I会長アーチ・クランフは、「ロータリーを更に大きくするためには、社会奉仕活動を盛んにしなければならない」との考えでした。1917年6月、アトランタ（米国）で開催された国際大会で、「世界でよりよきことをするための基金をつくろう」と会長提案をし、総会の承認を取りつけました。しかし、この当時のロータリアンの賛同を得るところまではいきませんでした。

この提案に沿って、最初になされた寄付は、カンザスシティロータリークラブからの26.5\$という小額なものでした。同クラブは、翌年（1918年）6月に聞かれる国際大会のホストクラブに指名されていましたが、慣例に従い、会長を退任するアーチ・クランフに記念品を贈ることになりました。一切の支払いを済ませたところ、26.5\$の余剰金が出たので、ロータリーに寄付することにしました。ロータリー本部では、本会計に入れることが出来なかったため、“ロータリー基金”という特別会計をつくり預かりました。この小さな種は、その後“ロータリー財団”と名称を変え、創立100年目の昨年、年間3億万\$を超える資金を集める大木に成長しました。この時、アーチ・クランフの“先見の明”と26.5\$という小額な寄付がなければ、ロータリーの大発展はなかったと思います。

5、ロータリーには、“国際ロータリー”と“ロータリー財団”という二つの法人があります。互いに関係し合いながら、「200を超える国又は地域に、35,727のクラブと1,220,185人のロータリアン」を誕生させました（2017. 8. 31現在）。世界中のロータリアンは、地球の平和と人類の幸せのために毎日活躍しています。

ロータリーの哲学や体質は、変化し変質していきませんが、ロータリアン一人一人は、時代がかわっても、“入りて学び、出でて奉仕せよ”の精神を忘れず、成長しなければならないと思います。

最初の4人のロータリアン



ポール・ハリス来日



ロータリー財団とは

1917年、アトランタ国際大会でアーチC.クランフが「全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野でよりよいことをするために基金をつくろう」と提唱したことに始まります。

